

放棄し、次では観念的少数運動のためには大衆的團結を自ら破壊して大衆から遊離するの愚を犯した。右翼陣營を見れば労働官僚は今日に於いては殆んど闘争の熱意を失ひ徒らに不逞の階級の産業管理改革案に迎合し完全なる資本家の走狗と化して去つた。階級的正道を歩む我等の立場を今も我等、態度である。

(三)無産階級戦線の統一。我等の統一方針は階級的大衆的統一戦線の確立である。この方針は政治戦線に於ては日本大衆黨の積極的支塔として一貫し、労働組合戦線に於ては産業別組合主義、促進と全国労働組合会議——労働組合全国提携促進を目標とする。由來我等の同盟方針は(1)以來産業別大組合主義を拒絶及び訓練の根本原則としてあるが、現下の我が国無産階級運動の事情はこれに實現に於て尙ほ条件の満たされざるの故に、我等は内部的産業別整理を進行すべからば、戦線統一策のみの設置を存置し、この格闘による統一戦線の促進をなすべしである。我等の期すは格闘による多量な進歩の統一戦線の實現にありし、我等に闘争力の集中を意味するものがある。

(四)資本に對する大衆的闘争の組織。労働組合の日常闘争及び組織活動の目標たるべき大衆は常に不安動搖の中に宛け出されおることを、現下の情勢は、特にこの不安動搖の重果は失業と労働条件の低下、賃金の減少に我等の二の方面に於ける闘争方針は資本主義の平和なる争奪に於ける幻影を一掃してかゝらなければならぬ。我等の不日、

資本に對する大衆的闘争の組織即ちこれである。換言すれば(一)右派は(二)大衆に對し、日常闘争の組織、(三)大衆の自然生長性に對する階級的刺激(三)日常闘争に於ける産業別乃至は地域的共同闘争の刺激、(四)政治的斗争と経済的斗争との交互的結合、(五)主要産業、大工場、鉱山等の如き)に對する計畫的闘争——これらは現下の大衆的斗争組織の骨子をなすものである。

五、同盟の闘争主体の完成

我等の同盟三年の月日は、斗争から斗争に暮れその間同盟本部より各組合本部に至るまで斗争主体の完成されおる部分が多量に、運動の血脈なる會計事務の不統一、連絡統制関係の不確立、指導部に於ける格闘による格闘、文部等の如き、これである。我等の同盟は創立と共に金融恐慌前夜の斗争に突進し、加へ豊富ならぬ財力を以てしては斗争主体の完成に欠ける所ありしは當然であつたといふが、然し、斗争主体の完成をくらし、先鋒的指導精神の遂に死滅に類せざるを得ない。思ふに本同盟の如きは同盟の根本生命たる民主的中央集權制を指図し、各専門部と組合の運動の具体的目標を明確にして進む時は斗争の過程が自ら斗争主体の完成の過程となるであらう。

(一)同盟本部専門部は本運動方針並に大会議事に即して専門部の行動方